

ゆりかもめ

yurikamome

紫式部が越前に向かう途中、深坂古道で詞書と和歌を残しています

ゆりかもめ発刊によせて

敦賀市 観光部長 小川 明

これから共に敦賀を盛り上げたいと考えておりますので、引き続き、温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新幹線開業により敦賀を訪れる方が増える大きな機会のなかで、敦賀を訪れる人たちに、是非その自然や歴史に触れ、敦賀を好きになっていただきたいと思っております。そのためには、ボランティアガイドの皆様のお力添えが必要不可欠だと考えております。皆様ののご支援とご協力があってこそ、観光客にとって敦賀がよりよい街になるだけでなく、市民の皆様にも自分たちのまち敦賀が素敵な所だと思っただけになるように確信しております。

観光ボランティアガイドの皆様には、日頃より市内外から訪れるお客様への心温まるおもてなしをいただき、心よりお礼申し上げます。皆様のご協力により、敦賀は多くの観光客に愛される場所となり、皆様が提供してくださるおもてなしの心と地域への情熱は、訪れる方々にとってかけがえのない思い出となっています。



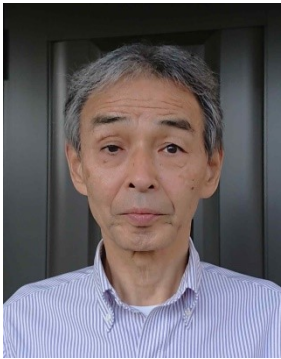
昨年11月に放送されたNHKのプラタモリ「すべての道は敦賀に通ず？」をご覧になった方も多いと思います。敦賀に通じた古代の道、古くから敦賀は大陸に開かれた日本海側の玄関口だったことなどをタモリさんがブラブラ歩いて解き明かす内容でした。このような敦賀に関する番組を見て来られる観光客の方も多いと思います。おみやげなども調べられ、地元特産のミカンを使ったお菓子や飲み物など、既に売り切れになっていたというお話も聞きます。テレビ番組や、それをご覧になった方々の「つぶやき」の影響がとて大きいことを改めて感じます。敦賀は、北陸新幹線、サンダーバードとらさぎ、小浜線、ハピラインふくいの各路線の終着駅であり始発駅です。国道が4本も經由しています。古来の道路も、今回ご紹介した「深坂古道」や「木ノ芽古道」を始め、多くの街道が敦賀に通じていました。様々な時代の流れの中、敦賀に来た多くの著名人がいました。こんな歴史を辿る旅は如何でしょうか。

先日、熊除けのためラジオを鳴らしながら追分から深坂峠を過ぎるところまで古道を歩きました。皆さん、熱中症にも気をつけて安全第一でお願いします。（将）

編集後記

新入会員のごあいさつ

高木 祐治



はじめまして、高木祐治と申します。この5月に入会いたしました。歳は60代半ばです。

息子の帰省時に「花換えまつり」に一緒に出かけたことで、会員の方々にお会いし、これが入会の契機となりました。

私の実家は敦賀駅前です。駅や鉄道についての記憶としては、①母親と蒸気機関車に乗り、トンネルに入る前には一斉に車輦の窓を閉めた ②岸恵子さんと萩原健一さんの映画のロケ地となった ③北陸トンネル内の列車火災などがあります。こうした駅や鉄道についての記憶も活かしつつ、活動に取り組みたいと思っています。

新入会員

高木祐治 氏
光友 律 氏

現在の会員数 27名

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

- 企画展 『おくのほそ道』と敦賀 8月27（火）～ 10月14日（月・祝）
松尾芭蕉が敦賀の地を訪れた中秋の名月に合わせ、『おくのほそ道』にまつわる資料が展示されます。また、芭蕉が訪れたことから敦賀で花開いた俳諧文化についても取り上げられ、敦賀の豊かな文芸の世界が紹介されます。
- 小テーマ展 天狗党資料 8月27（火）～ 10月14日（月・祝）
幕末に敦賀で散った水戸天狗党の遺品が、10月10日（木）に行われる松原神社例大祭に合わせて一部展示されます。

☆福井県立歴史博物館

- 「天下人の子」結城秀康と一族・家臣 ～2024年8月25日（日）
結城秀康は徳川家康の子でありながら、2度の養子に出され、弟の秀忠に將軍の座を譲るという「不遇」な人生を送ったとされます。しかし、徳川政権の樹立にあたって重要な役割を果たし、本多富正ら重臣の支えも得て、現在の福井市街地の原型を作ったとされています。秀康の子どもたちは各地の藩主となり、松平家が繁栄していくこととなりますが、そうした秀康の功績が紹介されています。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス(敦賀観光案内サイト漫遊敦賀)からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167
FAX 0770-22-8197
<https://www.turuga.org>

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

敦賀のみどころ⑩ 紫式部も越えた敦賀の古道

古代より今にいたるまで交通の要衝である敦賀。ここには、さまざまな人や物が往来した古道があります。旅人は言うまでもなく、輸送業者や歴史上の人物、塩や食料、生活物資、税物に諸文書や文化物などが通りました。北陸新幹線が敦賀まで開業した今だからこそ「敦賀の古道」を振り返り、楽しみながら歩いてみる時です。（松村 由利子）

主な敦賀の古道

大陸との玄関口、越路への起点、日本海の手運と琵琶湖の水運を結ぶ結節点であった敦賀には多くの古道があります。近江敦賀間には「深坂峠越え」や「七里半越え」「刀根越え」「白谷越え」をそれぞれ擁する道があり、近世初めには「新道野越え」も開削されました。敦賀今庄間は当初「山中越え」が使われ、平安時代以降「木ノ芽峠越え」が主要幹線道路となりました。

また、敦賀若狭間には「関峠越え」の丹後街道（若狭街道）があります。

紫式部ゆかりの峠越え

深坂峠越え（深坂古道）

敦賀追分から近江塩津へ抜ける深坂古道は、標高370mの「深坂峠越え」があり、たいへん険しい難所でした。塩津山と呼ばれ、「塩の道」で「塩津街道」とはこの道です。古代から越前と近江を結ぶメインストリートとして繁栄し、

敦賀津で陸揚げされた海産物や米、敦賀の塩などを運ぶ街道として、多くの人々に利用されてきた歴史の道です。今

はこの往来も衰退しましたが、深山幽谷の気があり、溪谷沿いのひんやりした空気や水の音に古道の風情があり何とも言えずステキです。

「古事記」応神天皇段で「この蟹やどこの蟹 百伝（ももつた）ふ、角鹿（敦賀）の蟹」と詠われた蟹もこの古道を運ばれていったのですね。



「百伝ふ」は「角鹿」の枕詞とのこと。何だかとても嬉しくなります。

「源氏物語」の作者紫式部は、若い頃、父の越前国司赴任に同行し、深坂峠越えで

詞書と和歌を残しました。しりぬらん ゆききにならず しほつ山よにふる道は からのきものぞと

（大意：知ってるんでしょ！よく行き来する塩津山でも越えるのは辛い。まして世の中を生きるという人生の道は大変険しいものだということをし！）

式部自身が「紫式部集」に入れたこの和歌は、越えた先にあるものへ、チャレンジするエネルギーを蓄えている感じ、「へいっっちゃら！」感に満ちています。越前への下向が楽しみだったのね。

木ノ芽峠越え（木ノ芽古道）

平安時代初めに開かれて千年以上にわたり、敦賀と福井方面を結ぶ幹線であった歴史の道「木ノ芽古道」は、標高630mの「木ノ芽峠」があり、地勢的に福井県を嶺北と

紫式部がここを往来し、それ以降も、あまたの歴史上の人物たちが往復しただけでなく、戦乱を繰り広げていいます。明治天皇も、この峠を興に乗って越え敦賀入りして、峠の下方には、「明治天皇御膳（ごぜん）水（すい）」と称する湧水があります。

敦賀武生間の車道開通（明治20年）と敦賀福井間の鉄道開通（明治29年）により、「木ノ芽峠越え」はその役割を終えました。現在、峠の下

ガイドつるがの取り組み紹介

「平和教育」研修旅行のガイド

ムゼウムを対象にした平和教育の研修旅行が、この数年増えています。次の世代を担う小中高校生に敦賀の歴史、そして人道の港敦賀の事を伝えることは、私たちの大きな喜びです。生徒や学生さんたちは、事前に勉強もして、熱心に説明を聞き、メモも真剣に取ってくれます。



先日こんなことがありました。研修旅行ではいくつかのグループに分かれますが、少し早めに全体会場に戻った生徒さん達から、「千畝さんの書いたビザの所もう一度行ってきたいいですか？」と問わ

れて、「場所わかるかな、大丈夫？」と送り出したことがあり、説明が駆け足になったかなと反省していました。

研修旅行では、時間厳守の依頼が強くありますが、生徒さん達にするともう少し勉強したいなと思ってくれている証だと嬉しく思っています。メンバーで話し合っています。

ガイドを終えてバスを見送ることも大きな楽しみで、みんな手をいっぱい振ってくれますから、疲れも飛んで、爽やかな気分で家に帰れます。

そして、また、頑張ろうと研鑽を重ねています。

ダイヤモンドプリンセス号“おもてなし”

7月5日（金）、クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号が敦賀港、山南岸壁に入港しました。

今回、岸壁では、高校生や保育園児のお迎えがあり、その歓迎ぶり



プリンセス号を見送るはぴりゅう達



英語解説の掲示を見つめる観光客も



追分にある深坂古道の案内